

# 令和2年度 南アルプス市立若草小学校 学校評価 後期自己評価書

南アルプス市立若草小学校  
校長 名取 和仁

## 1 学校評価について

### 1 学校評価の目的 …学校評価ガイドライン（H28改訂版）より

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

### 2 評価方法

#### (1) 評価・アンケート項目について

学校教育目標・目指す学校像・めざす児童像・めざす教職員像等を指針として、以下の分類（「学校行事」については後期に追加）の中より評価及びアンケート項目を設定し、教職員による自己評価、並びに児童・保護者に対するアンケートにより回答を得た。

- ①教職員自己評価：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校経営」「研究・研修」「施設・設備・安全管理」「家庭・地域との連携」「学校行事」
- ②児童アンケート：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校行事」「携帯電話」
- ③保護者アンケート：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「施設・設備・安全管理」「家庭・地域との連携」「学校行事」「携帯電話」

#### (2) 分析・考察に向けての評価基準

- ①各項目について、下表の4段階で評価・回答を得た。4と3の評価・回答を合わせて肯定的意見（プラス評価）、2と1の評価・回答を合わせて否定的意見（マイナス評価）としてとらえた。

4：そう思う	3：どちらかというと思う	…肯定的意見（プラス評価）
2：どちらかというと思わない	1：そう思わない	…否定的意見（マイナス評価）

- ②各項目の平均値（少数第1位まで）を算出し、下表のように設定したカッティングポイントを判定基準ととらえるなかで、分析・考察につなげた。

[カッティングポイント]

3. 0以上	… A（良好である）
2. 9～2. 5	… B（概ね良好ではあるが、工夫・改善の余地がある）
2. 4～2. 1	… C（工夫・改善が必要である）
2. 0以下	… D（根本的に工夫・改善を図る必要がある）

上記（1）の評価項目について、（2）の評価基準に照らし合わせながら、各学年による検討を行い、それを基に全体を通しての分析・考察を実施することにより評価結果とした。

## 2 後期自己評価結果（自己評価書）

### 1 本年度の学校教育目標、めざす学校・児童・教職員像について

#### 【学校教育目標】

- ①かしこい子ども
- ②美しいものに感動する子ども
- ③思いやりのあるやさしい子ども
- ④たくましく生きぬく子ども

#### <めざす学校像>

- ①児童にとって楽しく希望にあふれ充実した学校
- ②保護者にとって信頼できる学校
- ③地域にとって開かれた学校
- ④教師にとって創意が活かされ働きがいのある学校

#### <めざす児童像>

- ①授業に集中する子ども（話を最後までしっかり聴くことのできる子ども）
- ②気持ちのこもったあいさつができる子ども
- ③一生懸命にそうじができる子ども
- ④体育や休み時間に元気に活動できる子ども

#### <めざす教職員像>

- ①使命感と情熱にあふれる教職員
- ②児童と真剣に向き合い心を理解できる愛情あふれる教職員
- ③豊かな人間性と教養、専門的知識を兼ね備えた教職員
- ④保護者及び地域の期待に応え、信頼される教職員

#### <その他の重点事項>

- [若草中学校区における小中一貫教育の推進（南アルプス市推進事業）]
- ①若草中学校との一貫した教育への取り組み（縦の取り組み）
  - ②若草南小学校との連携した教育への取り組み（横の取り組み）

### 2 教職員自己評価、児童アンケート、保護者アンケートについて

令和2年11月に、学校職員による自己評価、及び児童・保護者を対象としたアンケートを実施し、その質問項目と集計結果を資料1～3に示した。

評価・アンケート項目のうち「学校行事」に関わる内容については、前期評価では新型コロナウイルス感染防止対策（以下、新型コロナ対策）による行事の延期・中止措置から評価項目から除外したが、後期においては制限を含めながらも実施できた活動もある為、評価対象として取り入れた。また、前期同様「携帯電話」に関わるアンケート項目については、市内小中学校で統一した内容とし、児童・保護者それぞれより回答を得た。ただし、前期の反省をもとに、アンケートの文言については、質問の意図がわかりやすく伝わるよう若干修正を加えた。

後期においても、保護者アンケートの回収率は、ほぼ100%となり、本校への関心や協力姿勢のあらわれであることがうかがえる。今後とも家庭と学校の連携を一層深め、教育活動を推進していきたい。

### 3 評価と改善策

#### (1) 全体的な評価の概略

**職員による自己評価**の結果は、全18項目が肯定的回答率97%以上のA判定であった。この結果から、本校の教職員が、学校教育目標やめざす学校像・めざす児童像等について十分意識して教育活動（職務）の遂行に努めていることが見てとれる。

しかしながら、前期の評価結果より低下している項目も複数みられた点は、その要因を探る必要がある。評価全体の内訳は、0.3ポイント低下が1項目、0.2ポイント低下が3項目、0.1ポイント低下が7項目、0.2ポイント上昇が1項目、昨年度後期より0.1ポイント上昇が1項目、前期と同評価が5項目であった。項目ごとの細かな要因分析は後の項に記載するが、前期評価の分析において、新型コロナ対策による学校再開の遅れや児童との接触機会の減少による負の部分、以降の新しい生活様式による学校生活を実践していくなかで取り戻すことを目標に掲げたものの、十分な対応がしきれず改善が困難であったものもとらえることができる。

0.3ポイント低下した項目は、**16**「積極的な情報提供と相互理解」である。肯定的回答率は100%であるものの、休校期間における情報提供の状況からすると提供頻度が減少した点や、依然として継続しているコロナ禍において、何を・どのように伝えていくべきか検討課題が残されている。0.2ポイント低下した項目として、**2**「思いやりのあるやさしい児童の育成」、**11**「全職員の共通理解と創意を生かした教育活動の実践」、**13**「研修会等への主体的な参加と授業力の向上」が挙げられる。**2**の項目については、肯定的回答率が100%であるものの、4の回答割合に着目すると、前期には75%の回答がみられたが、後期は約64%程度に低下している。長い臨時休校のあった1学期から夏季休業を経て2学期の新しい生活様式での教育活動を行うなかで、多くの戸惑いが生じ自信をもった回答ができなかったものと推測される。**11**の項目についても同様に、4の回答割合が約67%から約43%に低下している。また、**13**の項目については、校内研究は充実して進められたが、校外での研修の多くが中止またはリモートでの開催となったことから、肯定的回答率自体も97%に低下したものと考えられる。

0.2ポイント上昇した項目は、**15**「緊急時の対応・計画的な訓練による安全への配慮」である。予定していた取り組みのほとんどができなかった1学期の反省を踏まえるなかで、避難訓練等が実施できたことが、評価の向上につながったものと思われる。**18**「学校行事は意欲的に取り組み、楽しさや感動を味わえるよう計画されている」の項目については、前期には省略した内容であるが、新型コロナ対策による制限を受けながらも、「何ができるのか」「どうしたらできるのか」を熟慮するなかで、工夫して実施につなげられたものもあり、昨年度後期評価を0.1ポイント上回る結果となった。

**児童アンケート**の結果についても、携帯電話に関する項目を除く全12項目がA判定となる回答であった。1学期とは少し状況は異なるが、依然として新型コロナ対策による制限や影響があるなかで、全般的には前期と同程度の評価を得た。

なかでも、**10**「学校で困ったとき相談できる人がいるか」の項目については、昨年度および今年度前期も3.5と他の項目に比べるとやや低い評価であったが、後期は0.1ポイントではあるものの上昇がみられた。担任を中心とした細かな取り組みの成果がうかがえる。また、後期評価に加えた**12**「学校行事に進んで参加し、楽しさや感動を味わうことができるか」の項目については、95%以上の児童が4と回答しており、新型コロナ対策による制限がありながらも、充実した活動ができたものと読み取ることができる。

一方、**3**「自分から進んであいさつをしているか」の項目については、昨年度および今年

度前期に続いて3.5の評価が再現された。後期に向けての改善を期待した内容の一つであったが、肯定的回答率も全項目のなかで唯一90%を切っており、今後なお一層の改善に向けた取り組み方法の検討が課題とされる。

**保護者アンケート**についても、携帯電話に関する項目を除く全12項目がA判定となる回答であった。項目により多少のばらつきは見られるものの、概ね前期と同傾向の回答状況であった。

前期より0.1ポイント下回った項目としては、**3**「よくあいさつをしている」、**6**「思いやりの心や社会のルールを守る態度を育てている」、**10**「情報提供に努めている」が挙げられる。**3**の項目については、児童アンケートの3.5の評価に対して3.1という低めの数値が表出されている。前述のとおり「あいさつ」に関しては前期（前年度）からの検討課題であり、保護者においては一層の改善を期待したい生活習慣の一つであるにとらえることができる。**6**の項目については、肯定的回答率97%以上と高めであるが、3の回答が51%ほどを占めており、新型コロナ対策により授業参観を含め学校に出向く機会がほとんどないことから、学校生活での児童の様子をうまくつかむことができず、自信をもって高評価をつけられない状況が見てとれる。**10**の項目については、3.5と他の項目に対しても低い状況ではないが、教職員評価の項でも述べたように1学期の休校期間における情報提供の状況からすると提供頻度が減少した点が低下の一因として考えられる。しかしながら、昨年度後期よりも高い値ではある。

前期と比較して低下しているわけではないが、評価の低めの項目として、**3**「よくあいさつをしている」、**5**「家庭で学習する習慣が身についている」、**8**「教育活動に適した施設・設備が整っている」が挙げられる。**3**については、上で述べているので省略) **5**については、前期同様3.1という他より低めの数値であった。児童の回答が3.6であることからすると、認識のギャップが生じているように思われる。児童は、宿題をしっかりとやり切っているという自覚のなかで回答しているが、保護者の目からは質的・量的に物足りなさを感じているのかもしれない。また、4と回答している割合も30%を切っており、家庭学習に取り組んでいる場面をしっかりと見ることができていない状況にあるのかもしれない。なお、前期同様、保護者によって家庭学習のとらえ方（宿題の要・不要など）にも温度差がうかがえた。**8**の項目については、前期と同じ3.2の評価であり、4と回答した保護者も33%ほどであった。箇所によっては経年劣化も著しい施設である為、日々修繕を繰り返しながら教育活動を進めているが、老朽化は年を追って進む為、やむを得ない状況ではある。社会体育や避難所としての利用を考えた上で、改修・改善を望む声もある。

なお、昨年度後期よりも数値の向上している項目は、**4**「基礎基本の定着やつまづきへの対処」、**7**「相談に丁寧に対応・いじめのない集団づくり」、**10**「情報提供への努め」が挙げられる。コロナ禍により、教育現場も厳しい制約を求められる状況のなか、教職員の頑張りを認めていただいたものととらえる。

以上が後期学校評価の全体的な概略であるが、この結果については、教職員全体で真摯に受け止め、共通理解をもって改善に努め、3学期以降の教育活動に生かしていきたい。

※携帯電話の項目については、市で統一した内容での調査の為、全体的な評価の概略からは除外してある。

## (2) 分類毎による項目の評価（考察と改善策）

### I 学校生活について [対象：教職員・児童・保護者]

#### 【考察】

自己評価、アンケートともにいずれの項目についてもA判定であり、前期に引き続き概ね良好な学校生活の送られている状況がみてとれる。ただし、「あいさつ」の項目についてみると、自己評価では3.7であるものの、児童アンケートでは3.5、保護者アンケートでは3.1と他の項目に比べると低い値となっている。アンケートで4と回答した割合をみても児童は60%程度（肯定的回答率約89%）、保護者においては34%程度（肯定的回答率約81%）と十分満足な状況とはいえない。とくに保護者の回答結果に着目するならば、全体の概略の項でも述べたとおり、一層の改善を期待したい生活習慣の一つであるととらえられる。この項目については、前期（昨年度）にも課題とされたところでもある。新型コロナ対策により、身近で大きな声を出すことにも依然制約のある現状ではあるが、目指す児童像に掲げられた重点項目でもある為、より良好で満足のできる状況を目指していきたい。

#### 【改善策】

校内での児童会の取り組みによるあいさつ運動や、地域を含めた市内一斉あいさつ運動の開催期間には、気持ちの良いおじぎに合わせさわやかなあいさつの声もあちこちで聞かれた。日常の学校生活においても、あいさつが自然とできている児童も多く見かける。しかしながら、思うようにあいさつのできていない児童が少なくないのも事実である。あいさつは生活習慣の一つである為、習慣化されて初めて獲得できたものとなる。比較的良好な機会となるあいさつ運動を手立てとして、高学年から中学年・低学年へとあいさつの輪を広げていく活動に一層力を注ぐ。また、地域の方々にもあいさつができるように登校班指導などを通して上級生が手本となれるよう声かけを行う。さらに、号令のかかる形式ではあるものの、授業前後のあいさつも学級によって温度差がみられる為、全体で確認して徹底していく。加えて、家庭でもあいさつの活性化が図られるよう喚起および協力を呼びかけていきたい。

### II 学習指導・III 家庭学習について [対象：教職員・児童・保護者]

#### 【考察】

自己評価、アンケートともにいずれの項目についてもA判定であり、概ね良好な学習活動が進められている状況をうかがうことができる。なかでも「学習指導」の項目については、新型コロナ対策における履修の遅れも危惧されたが、限られた時間をやり繰りし授業改善を行うなかで必要な教育課程の進度に追いつくことができている。児童アンケートでは、前期に比べ0.1ポイント下がったものの前年度と同程度の状況である。保護者においては、前期同様に昨年度を0.2ポイント上回る結果となった。ただし、児童の「授業中の聴く態度」については、低下傾向が認められる為、改善の必要性を感じる。「家庭学習」の項目については、教職員の評価が3.4とわずかに低下している。また、評価の概略の項でも述べたように、児童の3.6に対して保護者の評価は3.1と認識のギャップが生じていることが認められる。実際、各学年の教職員による考察においては、宿題の提出状況は全学年とも良好の状況にあるが、自ら進んで取り組む態度や宿題以外の自主学習への取り組みの様子が、保護者の目からは満足できる状況にないのかもしれない。

#### 【改善策】

コロナ禍において、グループ学習等にも制限のある状況ではあるが、今後も学力向上支援スタッフの協力を得ながら、一層充実した学習環境を築いていきたい。また、「授業中の聴く態度」については、本校の目指す児童像の項目にも挙げられており、大切な授業規律の一環

として、全体で確認するなかで良好な状況が築かれるよう意識していく。家庭学習については、個人差はあるものの宿題のレベルでは概ね良好な状況にある為、いかに自主学習などに取り組む習慣を身につけさせていくかが課題となる。保護者により家庭学習のとらえ方も多様である為、一様に設定できることではないかもしれないが、家庭の協力なくして成り立たない部分でもある。家庭学習強化週間を中心に子どもの家庭での学習状況をよく知っていただくとともに、取り組みの意義や目的を周知しながら、より満足のできる状況に導いていきたい。なお、家庭学習強化週間の運用の仕方については、校内研究会でも取り上げて検討を重ねている為、その概要を末尾の補足資料に加えておく。

#### IV 生徒指導について [対象：教職員・児童・保護者]

##### 【考察】

自己評価、アンケートともにいずれの項目についても前期に引き続きA判定であり、肯定的回答率もすべての項目で90%を上回っていることから、概ね良好な対応のなされていることがうかがわれる。なかでも、児童アンケートの「学校で困ったとき相談できる人がいるか」の項目については、前期からの検討課題であったが、わずかではあるものの向上していることから、救われた児童も少なからずいたと評価できる。逆に「友だちのいやがる言動をしていないか」の項目は、0.1ポイント低下した。臨時休校期間のあった1学期に比べ、はるかに長い期間の学校生活を送るなかで、新型コロナ対策からくる制限によりスムーズにコミュニケーションがとれなくなっていることが危惧される。また、学校生活アンケート（いじめアンケート）を基にした、いじめの認知件数も1学期より増える結果（その多くは既に解決済みではあるが）となっており、改善に向けた対策の必要性を感じる。一方、2学期のQUの結果を見ると、1学期に比べ学級生活満足群の割合が全般的に増えてきている。学級担任による工夫した学級経営に加え、支援スタッフやティームティーチングによる協力体制が功を奏しているといえるが、個別にみると問題を抱えた児童への対応も多様化しており困難さを感じることもある。

##### 【改善策】

道徳の時間にはもとより、教育活動全般を通して豊かな心の育成に向け、より意識を高めた取り組みを行っていく。幸い少しずつ制限も緩和され（再度新型コロナ感染者も増えつつあり先は見通せない状況ではあるが）、授業における小集団を用いた活動や運動会、校外学習などの行事が縮小するなかでも実施できつつある為、互いの良さを認め合い、各々が自己肯定感を高められるような活動を仕組んでいきたい。いじめの認知件数が増えたことは、決して喜ばしいことではないが、教師が細かな部分まで目を行き届かせているからこそであり、また児童も教師に相談を持ち掛けている状況が前提にあるといえる。その多くが既に解決済みではあるが、経過観察中の事案も残されている為、とくに気になる児童には、積極的に様子を聞くなどして、いつでも児童が話しかけられるような雰囲気づくりと親身な対応を今後とも継続して心がけていく。問題を抱えた児童への対応については、スクールカウンセラーにも協力を得るなかで、家庭との連携を一層密にし、学校・家庭の両輪が同一歩調で児童の成長を支えていける体制を築いていきたい。さらに、長期的には、学級担任の負担軽減や小中連携の視点から、高学年における教科担任制も検討していきたい。

#### V 学校経営・VI 研究研修について [対象：教職員]

##### 【考察】

自己評価の結果、いずれの項目についてもA判定であり、共通理解をもとにした良好な学校経営がなされている状況をうかがうことができる。しかしながら、3項目とも前期に比べ低下している。なかでも「創意を生かした教育活動の実践」については、前期より0.2ポ

イント下げている。肯定的回答率は100%でありながらも、4の回答が約53%と低めの割合であることから、コロナ禍において工夫した教育活動の実践が思うようにできていない戸惑いからの回答結果ではないかと推測される。「研修会等への主体的な参加と授業力の向上」についても同様に0.2ポイントの低下であるが、全体的な評価の概略の項でも触れたように、校内研究は充実して進められたものの、校外での研修の多くが中止またはリモートでの開催となってしまったことが大きな要因と考えられる。「特別支援に関わる教育活動の実践」に関わっては、特別支援学級の在籍児童ばかりでなく通常学級にも支援を必要とする児童も少なくない。上の項でも述べたように必要に応じて、また状況に応じて校内での支援体制を整えているが、対応できるスタッフにも限りがありその対応も多様となっている為、困難な状況もみられている。

#### 【改善策】

新型コロナ対策に関わっては、再び先を見通せない状況になりつつあるが、「何ができるのか」「どうしたらできるのか」について常に模索しながら、その状況の中で選択された教育活動に自信をもって取り組んでいく。研修については、やむを得ない状況ではあるが、今後も着実に校内研修を重ねるとともに、個々としてもリモート研修などに対応できるようにしていきたい。特別支援教育に関わっては、現状でもコーディネーターを中心にケース会議を開くなどして対応しているが、一層充実させるとともに、スクールカウンセラーをはじめ外部機関の力を借りるなどしながら、家庭との連携を一層密にして改善を図っていきたい。さらに、多様な対応に備えられるよう、支援スタッフの追加増員等を市当局へも要望していく。

### VII 施設設備・安全管理について [対象：教職員・保護者]

#### 【考察】

自己評価、保護者アンケートともにいずれの項目についてもA判定の評価であった。保護者アンケートの「教育活動に適した施設・設備」の項目については、前期と同じ評価ではあるが、4と回答した保護者は約33%に低下している。古い施設である為、日々修繕を繰り返しながら教育活動を進めているが、老朽化は年を追って進む為、やむを得ない状況ではある。安全管理に関わっては、地域の学校応援団組織である「若草みまもりたい」に協力いただくなかで、登下校中の安全確保に努め効果を上げているとともに、校内でも1学期に実施できなかった避難訓練に取り組むことができ、児童の安全に対する意識を高めることができたことから、教職員による評価も向上したものと思われる。なお、保護者アンケートの欄外記載には、学校応援団の見守り活動に対する感謝の言葉が複数見られた。

#### 【改善策】

老朽化も著しくなってきたはいるが、今後も可能な限り修繕等を行いつつ、校舎や施設を大切に利用していきたい。また、長寿命化対策に向けての計画も検討段階に入ることが予想される為、スムーズに、また柔軟に対応できるようにしていきたい。安全対策については、継続して「若草みまもりたい」に協力をいただくなかで、登下校中の安全確保に努めていくとともに校内においては、2学期に実施した避難訓練の反省を踏まえながら、一層安全への意識を高めていきたい。

### VIII 家庭・地域との連携について [対象：教職員・保護者]

#### 【考察】

自己評価、保護者アンケートともにいずれの項目についてもA判定であり、肯定的回答率も96%以上と、概ね良好な連携が図られていると読み取ることができる。しかしながら、「情報提供」の項目においては、前期からの低下がみられた。1学期の臨時休校中に比較して情報提供頻度の減少、また実施可能になるだろうと予想されていた授業参観等が設定できず、直接自分（保護者）の目で学校生活の情報を得る機会が、十分に持てなかったことが一因ではないかと考える。

**【改善策】**

新型コロナ対策に関わっては、再び先を見通せない状況になりつつあるが、家庭や地域のニーズを考慮するなかで、「何を」「どのように」「いずれの媒体を利用して」伝えていくのかを考えた上で、適時・的確な情報提供に努めていきたい。また、制限を含むなかではあるが現状において3学期の授業参観等の計画が進んでいる。必要な対策を講じ工夫を加えるなかで、なんとか実施できるように努めていきたい。

**IX 学校行事について [対象：教職員・児童・保護者]****【考察】**

自己評価、保護者アンケートともにA判定であり、概ね満足のいく学校行事が企画・実施できたものととらえることができる。前期には回答を得ていない項目ではあるが、比較することはできないが、昨年度後期と比べると、教職員評価で0.1ポイントの上昇、保護者アンケートで0.1ポイントの低下となっている。(前年度は、児童アンケートに当項目なし)例えば運動会を取り上げるならば、教職員においては大きな制約のあるなかで、知恵を出し工夫を重ねながら実施できた達成感が評価に表れているのではないかと考えられる。逆に、保護者にとっては、制限が厳しく満足感の得られない状況であったのではないかと予想される。なお肯定的回答率は、教職員で100%、児童が95%程度、保護者は93%程度であった。

**【改善策】**

繰り返しになるが、コロナ禍により先の見通せない状況のなか、児童の成長を一番の中心にとらえた上で、「何ができるのか」「どうしたらできるのか」について熟慮し、学校・学年行事の企画・運営にあたる。また、家庭にも賛同と協力がいただけるよう、一層丁寧な対応を心がけていきたい。

**携帯電話について [対象：児童・保護者]**

所有率については、児童の回答では51.6% (前期44.1%)、保護者は37.1% (前期29.8%) という結果であった。本来なら両者の数値は一致すべきところであるが前期同様で両者にはかなりの開きがみられた。前期アンケートを実施した上での反省から、文言を修正してみたものの、あまり状況は改善されていないが、いずれにしても所有率は大きく上昇していることが読み取れる。児童の回答を対象に見ると、所有率は3年生で60%に近く、4年生以上では60%を上回り、6年生では約70%が所有していることになる。

ルールの有無についてみると、児童の回答では82.6% (前期85.3%)、保護者では95.9% (前期92.9%) が、家庭で使い方のルール決めているという回答結果であった。こちらも、児童と保護者で10%以上 (前期約8%) の差異が見られた。保護者はルールを決めているつもりでも、児童はそれほど意識していないケースも考えられるので注意が必要である。また少し気になるのが、児童の回答において前期の値を下回っているところである。所有者が大幅に増えるなか、ルールの決められていない状況が垣間見られる。

携帯電話やスマホ等、とくにインターネットやSNSを利用する際における問題点は、全国的に毎年指摘されている状況にある。本校でも、児童の携帯電話やスマートフォン利用に関わる教室等を企画したり、家庭と連携しながら、より有効で安全な利用の仕方について、折に触れ指導していきたい。



## □携帯電話（またはスマートフォン）所有率

(%)

	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童回答	51.6	22.5	36.7	58.9	61.5	60.6	69.7
前期児童回答	44.1	25.8	21.1	47.3	51.3	48.9	68.7
保護者回答	37.1	7.9	22.2	41.9	44.9	51.6	53.5
前期保護者回答	29.8	4.5	13.3	29.7	32.1	41.5	54.5

## □携帯電話（またはスマートフォン）のルール

(%)

	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童回答	82.6	80.0	75.8	72.1	83.3	86.0	89.9
前期児童回答	85.3	87.0	68.4	74.3	82.5	87.0	95.6
保護者回答	95.9	100	95.0	90.3	97.1	100	94.2
前期保護者回答	92.9	100	91.7	90.9	96.0	97.4	88.9

### (3) 分類毎による各項目の改善策（要旨）

#### I 学校生活について（あいさつに関わって）

- あいさつ運動を手立てとして、高学年から中学年・低学年へとあいさつの輪を広げていく。
- 地域の方々にもあいさつができるように、登校班指導などを通して上級生が手本となれるよう声かけを行う。
- 授業の始めと終わりのあいさつも全体で確認して徹底していく。
- 家庭でもあいさつの活性化が図られるよう喚起および協力を呼びかけていく。

#### II 学習指導・III 家庭学習について

- 「授業中の聴く態度」については、目指す児童像の重点項目および大切な授業規律の一つとして、全体で確認するなかで良好な状況が築かれるよう意識していく。
- 宿題のレベルでは概ね良好な状況にある。自主学習などに取り組む習慣を身につけさせていく為にも、家庭学習強化週間を中心に子どもの家庭での学習状況をよく知っていただくとともに、取り組みの意義や目的を周知しながら、より満足のできる状況に導いていく。  
※家庭学習強化週間の運用の仕方については、末尾の補足資料を参照。

#### IV 生徒指導について

- 授業における小集団を用いた活動や全校・学年の行事等を通して、互いの良さを認め合い、各々が自己肯定感を高められるような活動を仕組んでいく。
- とくに気になる児童には、積極的に様子を聞くなどして、いつでも児童が話しかけられるような雰囲気づくりと親身な対応を今後も継続して心がけていく。
- 問題を抱えた児童への対応については、スクールカウンセラーにも協力を得るなかで、家庭との連携を一層密にし、学校・家庭の両輪が同一歩調で児童の成長を支えていける体制を築いていく。
- 長期的には、学級担任の負担軽減や小中連携の視点から、高学年における教科担任制も検討していく。

## V 学校経営・VI 研究研修について

- (コロナ禍において)「何ができるのか」「どうしたらできるのか」について常に模索しながら、その状況の中で選択された教育活動に自信をもって取り組んでいく。
- 今後も着実に校内研修を重ねるとともに、個々としてもリモート研修などに対応できるようにしていく。
- 特別支援教育に関わっては、コーディネーターを中心にケース会議を一層充実させるとともに、スクールカウンセラーをはじめ外部機関の力を借りるなどしながら、家庭との連携を一層密にして改善を図っていく。
- 多様な対応に備えられるよう、支援スタッフの追加増員等を市当局へも要望していく。

## VII 施設設備・安全管理について

- 今後も可能な限り修繕等を行いつつ、校舎や施設を大切に利用していく。
- 長寿命化対策に向けての計画も検討段階に入ることが予想される為、スムーズに、また柔軟に対応できるようにしていく。
- 2学期に実施した避難訓練の反省を踏まえながら、一層安全への意識を高めていく。

## VIII 家庭・地域との連携について

- (コロナ禍において)家庭や地域のニーズを考慮するなかで、「何を」「どのように」「いずれの媒体を利用して」伝えていくのかを考えた上で、適時・的確な情報提供に努めていく。
- 制限を含むなかではあるが、現状において3学期の授業参観等の計画が進んでいる。必要な対策を講じ工夫を加えるなかで、なんとか実施できるように努めていきたい。

## IX 学校行事について

- (コロナ禍において)児童の成長を一番の中心にとらえた上で、「何ができるのか」「どうしたらできるのか」について熟慮し、学校・学年行事の企画・運営にあたる。
- 家庭にも賛同と協力がいただけるよう、一層丁寧な対応を心がけていく。

### 【補足資料】

#### 「家庭学習強化週間の運用の仕方」…第3回家庭学習強化週間に向けて(案)

- 家庭学習の習慣化を図る効果を考え、土日を含む7日間とする。
- 家庭学習力アンケートを使い、目標を設定させる。  
アンケート項目は、家庭学習においてつけたい力が網羅されたものとし、回答の値が低い項目を焦点化して力をつけていくことを目的とする。また、アンケートは家庭で実施し、保護者と相談しながら目標を設定する。なお、1年生についてはアンケートを実施せず、学校から提案する基本的な学習の姿勢を目標とする。
- 学習時間は1週間の中で調整していく。  
計画性の育成よりも学習の習慣化を目指して取り組む。
- 自主学習についての大まかな方向性  
自主学習を自主的に行う学習としてとらえる。高学年や中学校に向けて必要になってくる「自分に必要な学習内容を、自分で決め、自分のノートに自分でまとめる」という力を育てたい。タブレット学習やドリル学習を行う児童もいるが、できるだけ自分のノートを利用して学習を進めていくよう声掛けや、つけたい力についての説明をしていく。自主学習ノートは、3年生以上で利用するものとする。(低学年は困難な為、ノートは用意しない。)